

供給設備の技術上の基準

1. 保安距離	第1種保安距離（法定16.97m・障壁設置 0m） 実際 _____ m 保安物件の名称 _____ 第2種保安距離（法定11.31m・障壁設置 0m） 実際 _____ m 保安物件の名称 _____
2. 障壁	障壁の構造 材料 _____ 寸法（高さ） _____ cm（厚さ） _____ cm 扉の構造 材料 _____（厚さ） _____ cm 扉の補強 等辺山形鋼(棒) _____ mm × _____ mm（内） _____ mm × _____ mm 間隔（縦） _____ cm（横） _____ cm
3. 火気等との距離	火気等の種類 _____ 火気等との距離 _____ m 火気距離が5m未満 障壁（材料） _____（高さ） _____ m
4. 滞留防止	貯蔵設備面積 _____ m ² 法定換気口面積 _____ cm ² 実際の換気口面積 _____ cm ²
5. さく、へい等の設置	さく、へい等の種類 _____
6. 警戒標	掲示位置 _____ 表示内容 _____
7. 消火設備	粉末消火器 A _____ B _____ × _____ 個 その他 _____
8. 軽量の屋根等	屋根の場合その材料 _____ 遮へい板の場合その材料 _____
9. 転倒防止等の措置	貯蔵設備の床は水平で、かつ上から物が落ちる恐れがないようにする。 転倒防止チェーンによる転倒防止措置を講ずる。
10. 腐食防止措置	容器は十分に防錆塗装がされたものを使用する。 貯蔵設備は排水のよい構造とし、容器の底部を乾きやすくする。